

ペルー ブルーベリーで世界的主導力を強化、生食用ブドウも拡大

[FreshPlaza 2025年12月12日](#)

ルイス・ミゲル・ベガス氏は今年、ペルーの生食用ブドウの生産者と輸出業者を束ねる協会であるProvidの総責任者に任命された。この職務に加え、同氏はブルーベリー業界の同様の組織Proarandanosの責任者も2019年から務めている。この2本立ての管理体制は、両セクター間の相乗効果を目指すという考えに基づくものである。(以下「」は同氏の話)

「加盟企業の多くはブドウとブルーベリーの両方を栽培している。さらに、両品目は物流、市場アクセス、国際プロモーションといった共通の課題を抱えており、管理を統合する構想が検討されるのは自然なことであった。組織の構造は依然として分かれているものの、中期的には、各作物が必要とする技術的専門性を失うことなく、より一層の統合に向かう予定である。」

活力ある農産業のための代表性と戦略

ProvidとProarandanosは、いずれも任意加入の民間団体である。それぞれの作物において国内生産の約80%を代表しているものの、閉鎖的な業界団体となることは意図していない。「我々は、国内レベルではセクター全体を代表し、世界においては我々の果実の大使として行動することを目指している。」

両協会の活動は4つの戦略的な柱を中心に組織されている。第1は市場の開拓及び市場アクセスの改善である。国の農業衛生機関であるSenasaと連携し、新規市場へのアクセス獲得、既存市場の維持、並びに物流及び植物検疫条件の最適化に取り組んでいる。

第2の柱は統計情報の提供である。「生産者と輸出業者が情報に基づいた意思決定を行えるよう、信頼性の高い最新のデータを提供している。」

第3の柱は国際プロモーションである。これは、ベルリン、マドリッド、香港、米国等で開催される国際見本市への参加などであり、そこでは国別のパビリオン(展示区画)が設置される。

最後の柱はコミュニケーションである。「果実を単なる産品としてではなく、その産地において雇用、発展、福祉を生み出すものとして認識してもらいたい。」

生食用ブドウ：持続的成長と品種転換

ペルーの生食用ブドウ産業は驚異的な速度で発展してきた。「2011年の出荷シーズンには1,600万箱を輸出した。現在は8,300万箱に達し、今シーズンは8,600万箱に到達すると見込んでいる。」これはわずか12年で5倍以上に成長したことを意味する。現在の輸出登録面積は約2万4千ヘクタールであり、その半分がイカ県、35%がピウラ県、残りがランバイエケ、ラリベルタ、アレキパ、アンカシュの各県に分布している。

近年の最大の変化の一つが品種の転換である。「2016年には輸出されたブドウの90%が従来品種であった。現在は80%がライセンス品種である。」最も多く植えられているのはスイートグローブ(5,200ヘクタール)、オータムクリスプ(4千ヘクタール)、レッドグローブ(3,500ヘクタール)であり、レッドグローブは依然として一定の存在感を維持している唯一の従来品種である。

ダイナミズムと課題を併せ持つ市場

ペルー産ブドウの主要仕向け先は米国であり、輸出量の50%を吸収している。そのほか英国を含む欧州が25%、メキシコが8%を占める。コロンビア、中国、日本にも出荷されている。「中国については、おそらく現地生産の増加によるものと見られるがわずかに減少している。一方日本は、特定の品種のアクセスが留保されている(原文のまま)ものの、市場開放(2023年)以来シェアを拡大している。」

ブルーベリー：爆発的成長から成熟段階へ

ブルーベリーの場合はさらに目を見張るものがある。「2016年には2万7千トンを出荷していたが、現在は32万トンに達している。この数量により、ペルーは3年連続で世界最大の生鮮ブルーベリー輸出国としての地位を確立した。これは10年未満で10倍以上の成長であり、平均年間成長率は30%である。」しかし、成長速度は鈍化しており、このセクターが成熟段階に入りつつあることを示唆している。現在、ブルーベリーの栽

培面積は約2万5千ヘクタールであり、ラリベルタ県が42%、ランバイエケ県が26%、イカ県が14%を占め、アンカシュ県及びリマ県でも栽培されている。

品種の転換も同様に著しい。「ビロキシとベンチュラはかつて生産量の80%を占めていたが、現在は合わせて40%である。」セコヤポップ等の新しい品種が台頭している。ペルーでは10以上の遺伝・育種事業が稼働しており、農業特性、商業的出荷時期、及び地域の条件に適応した多様な品種の育成が可能になっている。ペルーで活動する育種事業者は、フォールクリーク、プラナサ、MBO、OZブルー、IQベリーズ、フロリダ大学等である。

過去3シーズンにわたり、ペルー産ブルーベリーの輸出単価(FOB)は上昇傾向を示した。2022-23年度シーズンの週平均価格は5.19ドル/kg、最高値は7.57ドル/kgであった。翌2023-24年度シーズンには平均7.45ドル/kgとなった。2024-25年度シーズンには平均7.57ドル/kgとなり、第36週(9月上旬)には10.64ドル/kgの最高値が記録された。

仕向け先市場によって平均FOB価格の推移には明確な違いがある。2024-25年度シーズンにおいて、中国は最高値12.78ドル/kg、週平均8.12ドル/kgで最も価格の高い市場であった。数量的に最大の市場である米国は最高値が11.70ドル/kg、平均が7.79ドル/kgで、他の市場に比べて変動が小さい。欧州ではより控えめで、週平均が6.56ドル/kg、最高値が10.91ドル/kgであった。

ペルー経済におけるブルーベリーの社会的役割について、ベガス氏は、ブルーベリー輸出は昨シーズン、約12万の直接雇用を生み、その大半を女性が占めたと述べている。

恵まれた気候と迅速な市場対応

ペルーの気候は重要な味方である。「年間を通じてブルーベリーを生産でき、植え付けからわずか8カ月で輸出可能な果実が得られる。」これにより、新品種の試験導入が容易になり、迅速な投資回収が可能となる。

輸出カレンダーも明確である。シーズンは5月から翌年4月までである。初期の7～9月には中国が主要な輸入国であり、ペルーは北半球諸国との競合が少ない有利性を活用している。10月以降は米国及び欧州向けが中心となり、同月には週2万トンを超えるピークが見られる。輸出されるブルーベリーの約10%は有機栽培であり、作物の需要を考えるとかなりの割合である。

生産者の特徴

ブドウとブルーベリーの両方において、協会はあらゆる規模の企業を代表している。しかし違いもある。「ブルーベリーについては、この作物の技術的及び商業的要件から小規模生産者は少ない。一方、ブドウでは中小規模の生産者が多いが、アボカドほどではない。」

将来について、ベガス氏は、量的な成長だけに焦点を当てるのではなく、賢明な成長が必要であると言う。「我々は持続的ではあるものの、より緩やかな成長に向かっている。鍵となるのは品質向上、より良い品種の選択、既に開かれている市場での地位の強化である。」また、ブルーベリーにおける日本のように、輸出要件がより難しい新規市場へのアクセスにも関心を有している。

執筆者：ピーター・デ・クリーマー